

主題名

正しいことを進んで

教材名

おれた ものさし (東京書籍)

内容項目 Aー(1)『善悪の判断、自律、自由と責任』

本単元で育成する資質・能力

思考・表現 協力・協働

1 対象・日時 第2学年1組 男子8名 女子9名 計17名
令和6年10月30日(水) 第3校時

2 主題設定の理由

- 本主題は、「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」小学校第1学年及び第2学年の内容項目Aー(1)「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。」をもとに設定したものである。

人として行ってよいこと、社会通念として行ってはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から身に付けていくべきものである。そのためには、何事にも積極的に取り組む姿勢が必要となる。その原動力は自らを信じる姿勢であると考えられる。ただし、それは過信や自分勝手なものではなく、よいと思ったり正しいと判断したりすることができる力を伴った自信や自律的な態度でなくてはならない。よいこと、正しいことについて、人に左右されることなく、自ら正しいと信じることに従って、誠実かつ謙虚に行動することは、人として重要なことである。価値観の多様な社会を主体的に生きる上での基礎を培うために、よいことと悪いことの区別が的確にできるように指導する必要がある。集団生活における自覚が芽生え始めてきたこの時期に、行為の動機を自分との関わりで考え、よいことと悪いこととの区別が的確にできる力や判断する力を養うとともに、自ら正しいと思ったことを進んで行うことができる意欲と態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

- 本学級の児童は、9月の道徳科「わすれられない えがお」で、よいと思うことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こしながら、よいことと悪いこととを区別する大切さについて学習した。「チャイムが鳴るから、そろそろ座ろう。」「静かにしようよ。」など、きまりや時間を守って行動しようと、友達に進んで呼びかける児童が増えてきた。一見、道徳的な実践が積み重ねられているように見受けられる。しかし「少しくらい大丈夫」「早く遊びたいから」と、廊下や階段を走ったり、時間に遅れて着席したりする児童も見られる。また「自分の行動はよくても人がするとよくない」といった自分勝手な思いで注意し合うことがきっかけとなり、トラブルに発展することもある。よくない行動を見かけても、相手によっては直接自分では注意せず、教師に頼る児童も多い。事前に行ったアンケートでは、次のような結果が見られた。

「善悪の判断に関する事前アンケート」 質問項目	児童回答率
① 友達がよくないことをしているとき、「だめだよ」と伝えることは大切だと思いますか。【主な理由】よくないことは直してほしいから そのまま続けるのはよくないことだから	100% (17人/17人)
② 友達がよくないことをしているとき、「だめだよ」と言えなかったことはありますか。【主な理由】友達に怒られそうだから 言いづらいから 相手に言い返されそうだから	70.6% (12人/17人)

上記の結果から、児童は友達のよくない行動に対してきちんと伝えなければいけないと考えている。しかし、友達のよくない行動に気付いても「相手に言い返されそうだから」「言いづらいから」等という理由で、そのままやり過ごしている児童が多いことが分かった。これらのことから正しいことを進んで行おうとする態度が十分に育っていないと考えられる。

このような実態から、本教材を通して、主人公が友達の行動をよくないと判断し、立ち向かう行為の動機付けを自分との関わりで考えさせることで本時のねらいとする「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」へと迫っていきたい。友達との関わりの中で傍観者にならず、自ら正しいと信じることに従い、不正を指摘することの大切さに目を向けることで、よいことや正しいと思うことを的確に判断し、進んで行おうとする意欲と態度を養っていききたいと考える。

- 本教材は、先生のものさしを折ってしまったのぼるが側にいたひろしに自分の過ちを押し付けようとする場面から始まる。のぼるの仲間たちはひろしのせいにしようとはやし立てる。それを見ていた「ぼく」は、以前に友達の下敷きを割ったのぼるの過ちを押し付けられたことを思い出す。今にも泣き出しそうにしているひろしを見た「ぼく」は、ひろしからものさしを取り、のぼるに渡す。教室のみんながのぼるを一斉に見る中、のぼるは黙ってものさしを受け取るという話である。児童にとって、影響力の強い子に対して不正を指摘することは現実には難しいと考えられる。それだけに登場人物「ぼく」の気持ちがよく分かり、行動にも共感しやすい教材である。

導入では、事前アンケートを活用し、正しいと信じる行動についてどう捉えているのかを全体で共有することにより、本時のねらいとする価値への方向付けを図っていく。

展開前段では、のぼるがひろしに折れたものさしを持たせ、自分の過ちを押し付けるのを見たときの「ぼく」の気持ちを考えさせる。その中で「のぼるはなぜひろしに押し付けたのか」板書に整理することで、押し付けを断ることができないひろしの状況について理解が深められるようにする。(あのときとおなじだ…)、ひろしと同じように過ちを押し付けられた「ぼく」の気持ちを考えることを通して、絶対に不正を許すことができない思いと、以前「本当はのぼるが下じきを割ったんだ」と言い返すことができなかった心の弱さに向き合う「ぼく」の葛藤に気付かせたい。

中心場面では、役割演技を取り入れ、「ぼく」の折れたものさしをのぼるに返す行為につながる動機や気持ちに自我関与させることで、より考えを深めていく。また、交流場面では発表した児童の思いを全体に返し、友達の考えを見たり聞いたりする中で、「自分はどうか考えたのか」「なぜそう思ったのか」と問うことにより、自分の考えを構築させる。そして「ぼく」の心情理解に留まらず、「自分のことではないのになぜ行動に移せたのか」を問うことにより、正しい行為について多面的・多角的に考えさせ、ねらいとする価値へと迫っていききたい。さらに「教室のみんなはどのように思ったか」を問うことで、「ぼく」の正しい行為に寄り添った言葉を考えさせ、道徳的価値を認識し、自分の考えを再構築する場を設定する。「よいと判断したことを進んで行うこと」は、自分がすがすがしい気持ちになるだけでなく、そのことが友達のためでもあり、さらにはみんなのためにもなることに気付かせたい。

展開後段では、本時で学んだことと自分の姿を重ねて考える「振り返りの視点」を示すことで、それぞれに新たな目標を見出し、これから目指す行動をイメージする児童の姿を期待したい。

終末では、教師の説話により「よいと思ったことを進んで行うよさ」の道徳的な価値付けを図る。また、必ずしも人の不正を指摘する行為がよいのではなく、自らが正しいと判断する行為の動機、判断に至る理由が大切であることに触れ、自律的な意欲や態度へと導いていきたい。

3 他の教育活動との関連

『友だちみんな宝物』プロジェクト

子どもの姿

before

「自分の行動はよくても人がするとよくない」といった自分勝手な思いで注意し合うことがきっかけとなり、トラブルに発展することがある。また、「相手に言い返されそうだから」「友達には言いづらいから」といった理由から、友達のよくない行動に気付いてもそのままやり過ごしている児童の姿が見られる。

アンケート

- ① 友達がよくないことをしているとき、「だめだよ。」と伝えることは大切だと思いますか。
- ② 友達がよくないことをしているとき、「だめだよ。」と言えなかったことはありますか。

事前指導

【学校行事】 集団下校、火災を想定した避難訓練

同じ地域や異学年という枠組みの中で自分やみんなの命や安全を守るための判断力を養うとともに、目標に向かって仲間と声をかけ合いながら活動する中で自分の安全を確保するための適切な避難行動を身に付ける。

【道徳科】 教材名：「わすれられない えがお」

バスの中で、隣のおばさんの足を踏んでしまった「わたし」の心の葛藤を自分との関わりで考えることを通して、正しいと思ったことは進んで行おうとする心情を育てる。

内容項目： A－1 善悪の判断、自律、自由と責任

【道徳科】 教材名：「おれた ものさし」（本時）

折れたものさしを渡すまでに生じた「ぼく」の心の葛藤を自分との関わりで考えたり、葛藤しながらも正しいと思ったことを行動に移した「ぼく」の気持ちを自我関与したりすることを通して、正しいと思ったことは進んで行動に移そうとする意欲を育てる。

内容項目： A－1 善悪の判断、自律、自由と責任

事後指導

【学級活動】『友達からもらったキラキラを見つけよう』

友達との関わりの中で、自分や友達みんなのためになる正しい行動について見直したり伝え合ったりする活動を通して、友達と信頼関係を築き、よりよい集団をつくろうとする意識を高める。

子どもの姿

after

友達との関わりの中で、相手が誰でも「正しいことは正しい。」「よくないことはよくない。」と伝えることは自分がすがすがしい気持ちになるだけではなく、友達やみんなのためにもなることに気付き、自分で考えたことを進んで行動に移そうとする意欲をもつ。

4 本時の学習

(1) 本時のねらい

葛藤しながらも正しい行動をした「ぼく」の気持ちについて役割演技を通して考え、善悪の判断を的確にすることの大切さに気づき、よいと思ったことは進んで行動に移そうとする意欲を育てる。

(2) 学習の流れ

	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点（・） 評価の観点（☆）
導入 課題意識をもつ	1 アンケート結果やこれまでの経験から思いを出し合い、課題意識をもつ。	○ 友達がよくないことをしている時に、「だめだよ。」と言えなかったことはありますか。言えなかった（水色）12人 言えた（ピンク色）5人 ○ よくないと分かっているのに、なぜ「だめだよ。」と言えなかったのでしょうか。 ・相手に言い返されそうだから。 ・友達には言いづらいから。 ・注意すると、逆に怒られそうだから。	・ アンケート結果やこれまでの経験を想起させることで、本時でねらう価値への方向付けをする。 ・ 大切だと分かっているいてもいざ相手を前にすると何も言えない“ずれ”に気付かせ、課題を設定する。
	「正しい行おう」をするためにはどうしたらいいだろう。		
展開前段 学びを深める	2 教材「おれたものさし」を読んで話し合う。 個人思考 ↓ 役割演技 ↓ 全体交流 役割演技のルール ① 演じる人は 恥ずかしがらず、主人公になりきって堂々と演技をする。 ② 見ている人は 「どう思ったか」「自分ならどうするか」、演技を見て考えたことを話す。	○ のぼるがひろしに折れたものさしを持たせているのを見た「ぼく」は、どのようなことを思っていたのでしょうか。 ・ひろしがかわいそう。 ・本当はのぼるが折ったのにひどい。 ・ひろしは弱いから…、何も言えない。 ○ あの時のことを思い出した「ぼく」は、どうして心の中でさげんだのでしょうか。 ・ひろしがかわいそうだけれど、やっぱりのぼるや仲間のことが怖いから。 ・自分がのぼるに何か言われそうだから。 ・でも…、本当にこのままでいいのかな。 ◎ 「ぼく」はどのようなことを考えながらのぼるにものさしを渡したのでしょうか。	・ 教材をデジタルで提示したり場面をT Tで再現したりすることで、状況についての理解を深める。 T 1 観察・T 2 教材提示 ・ 不正を許せない心の高まりと以前、言い返すことができなかった自分の弱さと葛藤する「ぼく」の気持ちを捉えさせる。 ・ 役割演技を通して、「ぼく」の行為の動機につながる気持ちを実感させ、道徳的な考えを深める。 ・ 「自分のことではないのになぜ注意できたのか」と問い返すことでねらいとする道徳的価値へと迫る。 ・ 「ぼく」の気持ちに焦点をあてることで個の考えを構築する手がかりにさせる。

学びを深める	個人思考 ↓ 全体交流	○ 役割演技を見て、どう思いましたか。 ・のぼるのが怖かったのに、注意できたところがすごい。 ・これでひろしも「ぼく」も本当のことが言えて気持ちがすっきりしたと思う。 ・これでのぼるも自分が悪かったことに気付くことができたと思う。 ・のぼるのためにもなったと思う。 ・役割演技を見て、わたしも「ぼく」のように、これからよくないことは「だめ」と言えるようになりたいと思った。	・「ぼく」の正しいと判断した勇気ある行動は、自分のためだけではなく、相手のためにもなることをおさえる。 ☆ 正しいと思ったことを進んで行動に移したときのすがすがしい気持ちに気付いている。(発言・観察)
展開後段 学習したことを振り返る	3 本時のまとめをする。 4 学習したことを振り返り、自分の生き方について考える。	○ 役割演技やみんなと話をしてみて、正しい行動をするために必要なことは何だと思いますか。 正しい行動をするために… ・「言い返されそう」「言いづらい」と思ってもよくないと思ったら、ちゃんと相手に「だめだよ」と伝える。 ・「どうしよう」と迷ってもよいと思ったことをする。 ○ 今日の学習で分かったことやこれからの生活に生かしたいことを書きましょう。 ・言いづらくても友達のためになるから注意したい。 ・相手が怖くても気付いていないふりをしない。 ・みんなのためにもよくないことはよくないと伝える。 ・「もし自分がされたら」と考えて行動していきたい。	・振り返りの視点を示し、本時で考えたことや今後の生活に生かしていきたいことをまとめさせる。 ☆ これまでの自分を振り返り、正しいことを判断して進んで行動に移そうとする意欲をもっている。(ワークシート)
終末	5 教師の説話を聞く。	○ 先生が子どもころの出来事について話すので聞いてください。 ・相手が年上で仲間もいたのに注意できたのがすごい。 ・友達も、注意してもらってすごくうれしかったと思う。 ・もし黙っていたら、また水をかけるかもしれない。 ・水をかけた人たちも、いけなかったことに気付けたはず。	・人の不正を指摘する行為がよいのではなく、自分で正しいと判断したことを行動に移す大切さに気付かせる。

5 板書計画

おれたものさし

正しい行どうをするためにはどうしたらいいだろう。

「おまえがおったんだろ。」

挿絵①

ひろしがかわいそう
本当はのぼるがおったのにひどい。
ひろしは弱いから…何も言えない。

ぼくはこころの中でさけんだ

のぼる・なかまがこわい
のぼるに何か言われるかも

どうしよう…

また人のせい…、ゆるせない
ひろしもぼくと同じでいやなはず

挿絵②

のぼるにもものさしをわたした

挿絵③

どうしてひろしのせいに
本当のことを言って
自分がおなじことをされたら？
ぼくだって…くやしかった

これから自分

気もちがすっきり
みんなもすっきり

◆ 友だちのため ↓ ちゅういする。

◆ みんなのため ↓ 「よくない」とつたえる。

◆ 「もし自分がされたら」 ↓ 考えて行どうする。